

世界報道写真展 2016

2016年9月3日(土)～10月23日(日)

東京都写真美術館 地下1階展示室(恵比寿ガーデンプレイス内)



世界報道写真大賞 スポットニュースの部 単写真1位
ウォーレン・リチャードソン (オーストラリア)
2015年8月28日 レスケ (ハンガリー南部)

セルビアとハンガリーの国境を越えようとするシリア難民の男性と子ども。国境の有刺鉄線付きフェンスができあがる前に、ハンガリー側へ渡ろうとする群衆の中にいた。

- 主催 世界報道写真財団/朝日新聞社
- 共催 東京都写真美術館 (公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 後援 オランダ王国大使館/公益社団法人日本写真協会/公益社団法人日本写真家協会/
全日本写真連盟
- 協賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

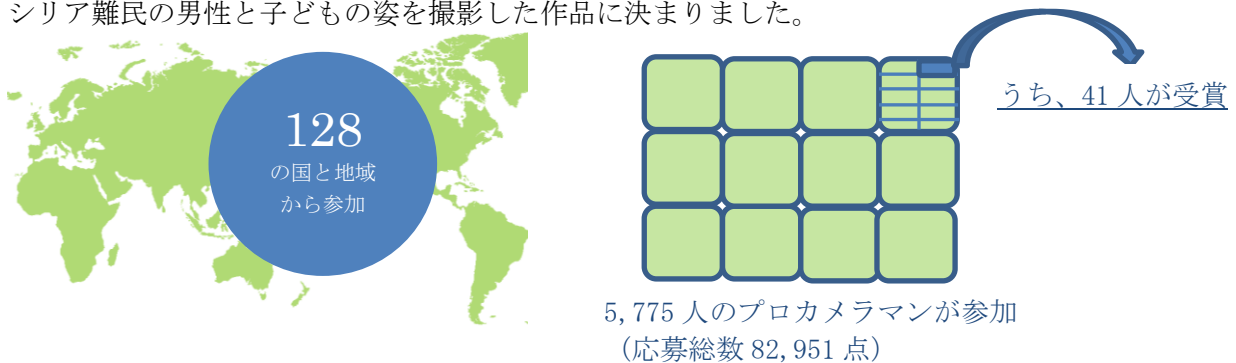
掲載に関するお問い合わせ

「世界報道写真展 2016」東京展広報事務局 田中、三井
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル (共同PR内)
TEL:03-3575-7450/FAX:03-3546-1894/E-mail:wpph-pr.kyodo-pr.co.jp

世界的に権威のある写真コンテストの入賞作を展示

「世界報道写真展」は1955年にオランダのアムステルダムで、世界報道写真財団が発足したことにより、翌年から始まったドキュメンタリー、報道写真の展覧会です。毎年、1月～2月にかけて主に前年に撮影された写真を対象にした「世界報道写真コンテスト」が開かれ、十数人からなる国際審査員団によって選ばれた入賞作品が「世界報道写真展」作品として、世界中で展示されます。

第59回世界報道写真コンテストは128の国と地域から5,775人のプロカメラマンが参加し、応募総数は82,951点。その中から選ばれた8部門41人の受賞作品が2016年2月18日に発表され、今年の大賞は、オーストラリアのウォーレン・リチャードソン氏がセルビアとハンガリーの国境でシリア難民の男性と子どもの姿を撮影した作品に決まりました。



日本人カメラマンのコンテスト参加状況

「世界報道写真コンテスト2016」では、日本人の応募が約50件あり、新聞社・通信社・雑誌社などに属するカメラマンや、プロのフォトグラファーが精力的に応募しています。今年は「人々の部の組写真において、日本人の小原一真氏が1位に選ばれました。

世界で総計350万人を動員—今年の東京展は

リニューアル・オープン後の東京都写真美術館（恵比寿）で

「世界報道写真展」は1年を通じて、世界の45カ国約100会場（2015年実績）で開かれ、総計350万人が会場に足を運ぶ世界最大規模の写真展です。日本でも約20年以上にわたり開催を続けてきた本展。今年の東京展は東京都写真美術館（恵比寿）の改修工事が終わり、リニューアル・オープン記念展として、二年ぶりに恵比寿で開催します。

同じ時代を生きる人たちの、普段目にすることが少ない現実を鋭い視線で捉えるプロの報道カメラマン達。その圧倒的な力量で表現される受賞作品の数々は、時に美しく時に厳しく、見る者の心に迫ります。



■ ■ 今年の入賞作品—日本人写真家の入賞も！

今年41人がコンテストでの入賞を果たしました。コンテストの部門は全部で8つ。さらにそれぞれが「単写真（写真1枚）」と「組写真（複数の写真で構成）」に分かれています。入賞者は部門毎に各1位から3位までのいずれかに該当します。入賞者の中から、その年の最も優れた写真1点に対しては「世界報道写真大賞」が贈られます。今年の大賞はオーストラリアのウォーレン・リチャードソン氏が、セルビアとハンガリーの国境を越えようとする難民の男性と子どもを撮影。警備隊に見つからないようフラッシュを使用できない月明かりの下、国境の有刺鉄線付きのフェンスができあがる前の緊迫した様子が伝わってきます。



世界報道写真大賞
スポットニュースの部 単写真1位
ウォーレン・リチャードソン（オーストラリア）
2015年8月28日 レスケ（ハンガリー南部）

また、ポートレート関連の部門は「人々（People）」の部に集約され、「日常生活」の部とともに、同じ時代に生きる人たちの、知られざる姿を写し出しています。



人々の部 組写真1位
小原一真（日本）
2015年6月30日 キエフ（ウクライナ）



日常生活の部 単写真1位
ケビン・プレイヤー（カナダ、Getty Images）
2015年11月26日 山西省（中国）

WORLD PRESS PHOTO

世界報道写真財団公式サイト（英文）

<http://www.worldpressphoto.org/>

■ ■ 全 8 部門の受賞作品

「世界報道写真コンテスト」は、国際審査員団によって入賞作品が選ばれます。十数人から成る審査員団は毎年メンバーを替えて、審査の中立性を保つ努力がなされています。全ての応募作品は匿名で審査され、票を持たない事務局員が審査過程の公平性を監督します。

※①～⑨は広報作品番号です。

※作品説明に関しては、撮影された写真を説明するためにカメラマン本人が付けたものを日本語に翻訳しております。説明が長いものに関しては、内容が改変されない範囲で適宜縮めていただきご掲載をお願いいたします。

スポットニュースの部



〈単写真 1 位〉 / 世界報道写真大賞

①ウォーレン・リチャードソン (オーストラリア)
2015 年 8 月 28 日 レスケ (ハンガリー南部)

セルビアとハンガリーの国境を越えようとするシリア難民の男性と子ども。国境の有刺鉄線付きフェンスができあがる前に、ハンガリー側へ渡ろうとする群衆の中にいた。

【審査員のコメント】

審査委員長 フランシス・コーン：

最終審査の場では、難民問題とその他の問題についてどちらに世界規模での重要性をあげるべきかについて一部で危惧するところがあった。しかし、最終的にはシンプルでありながら力強く、また象徴的意味のある作品が選ばれた。白黒写真に込められたすべての要素を合わせて見たとき、ひとつのストーリーがまるごと語られていることが分かる。深夜の国境越え、有刺鉄線、影のように見える別の者へ赤ん坊を手渡す一人の人物。この写真が伝えているのは恐怖と苦難、そして希望なのである。

【作者のコメント】

ウォーレン・リチャードソン：

「あの写真を撮ったときには疲労困憊していました。その瞬間に起こっていることをひたすらカメラに収めるため、側溝を上り下りし、ぬかるみを歩き、上に行ってはまた下りを繰り返していましたから。そのときが来ると、人々は“さあ早く！”と言うかのようにめいめい手を伸ばしてフェンスの下を大急ぎでぐり抜けていきました。時間は午前 3 時ごろでしたが、フラッシュは使えません。彼らのような人々を捕まえようとしている警察がいる中で使えば、難民たちは私を避けるしかないですから。月明かりだけが頼りでした。」 「私にとってこの写真は、私たちの歴史の一部であり、人間に対する理解をさらに深めてくれるものです。それまで会ったことのなかった人々に出会えたことを心からありがたく思っています。こうした人々についてネガティブな話も数多く聞いていましたが、実際に彼らと過ごしてみると、それらとは正反対のことを経験しました。家族を大切にする彼らが望むことは、私たちが享受しているのと同じ生活をするだけなのです。結局のところ、この地球は私やあなたのものであるのと同じく、彼らのものでもあるのです。フェンスを作り、あなたはこっちの土地には来られないからそっちにいなさい、と言うことがなぜできるのでしょうか。」

スポットニュースの部



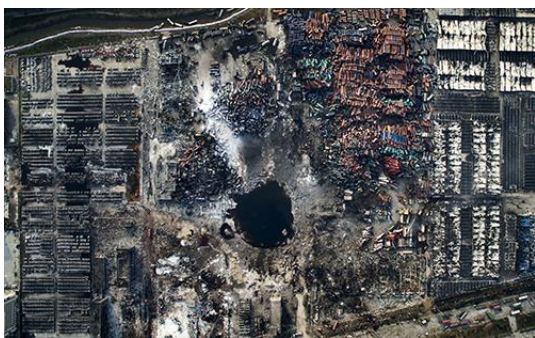
〈単写真 2 位〉

②コレンティン・フォーレン (フランス)

2015 年 1 月 11 日 パリ (フランス)

仏週刊新聞「シャルリー・エブド」の襲撃に始まり、首都パリを襲った一連の事件後に起きた、反テロを訴えるデモ風景。

一般ニュースの部



〈単写真 3 位〉

③チェン・ジー (中国)

2015 年 8 月 15 日 天津市 (中国)

上空より撮影した、中国天津市の大爆発後の光景。

自然の部



〈組写真 2 位〉

④ブレント・スタートン (南アフリカ共和国、Getty Images、ナショナルジオグラフィック誌向け)

2015 年 1 月 7 日 ザクマ (チャド共和国)

不法な象牙密輸で利益を得ている武装グループ、象牙に関する争いの最前線で戦う人々、その影響を受けている人々の姿を追った。神の抵抗軍(LRA)の兵士が2本の象牙を抱えている。象牙は、LRAの食糧及び武器の資金源となる。

現代社会の問題の部



〈単写真 2 位〉

⑤エイドリアン・オーネシアン (米国)

2015 年 2 月 27 日 中部ダルフル州 (スーダン)

自宅の隣にスーダン政府のアントノフ機による爆弾投下があり、7 歳のアダム・アブデルは大きな火傷を負った。

人々の部



〈組写真 1 位〉

⑥ 小原一真 (日本)

2015 年 6 月 30 日 キエフ (ウクライナ)

1986 年 4 月 26 日、チェルノブイリ原子力発電所で、非常に大きな原子力事故が起きた。事故からわずか 5 ヶ月後、チェルノブイリから南に 100 キロ程の町キエフで、少女が生まれた。少女はこの悲劇の被害者の一人となった。人知れず生きる少女の 30 年を追った。

人々の部



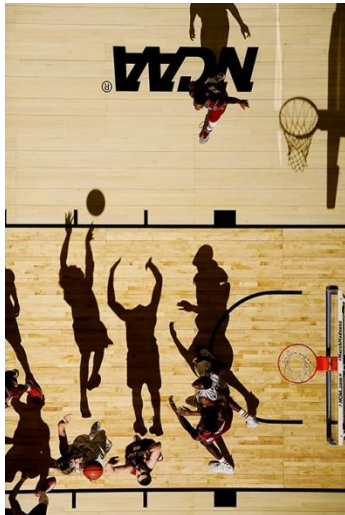
人々の部 単写真 1 位

⑧マティック・ゾーマン (スロベニア共和国)

2015 年 10 月 7 日 セルビア共和国

セルビア・プレシェボの難民キャンプで難民申請の登録を待つ雨合羽をかぶった少女。

スポーツの部



スポーツの部 単写真 2 位

⑦グレッグ・ネルソン (アメリカ、Sports Illustrated 誌向け)

2015 年 3 月 20 日 ネブラスカ州オマハ市 (アメリカ)

2015 年の全米大学体育協会 (NCAA)男子バスケットボールトーナメントのウィチタ州立大学対インディアナ大学戦において、ロン・ベイカーは、ニック・ゼイスロフトを超えてシュートを決めた。

日常生活の部



日常生活の部 単写真 1 位

⑨ケビン・フレイヤー (カナダ、Getty Images)

2015 年 11 月 26 日 山西省 (中国)

石炭火力発電所の近隣で三輪の車を引く男性。石炭燃料発電へ依存してきた歴史が、中国を世界の二酸化炭素(CO2)総排出量の約 3 分の 1 を占める国にした。科学者や環境問題専門家は、有害汚染物質は地球温暖化を引き起こす第一の要因だと指摘する。

長期取材の部



「長期取材」の部 2 位

ナンシー・ボロウィック (アメリカ)

死の中の生活：ロウレル・ボロウィックとハウイー・ボロウィックは、34 年間の結婚生活の最後の 1 年を、ともにがんと闘いながら生き抜いた。最後の数カ月間を、病気という自分たちの問題に心を占められて過ごすより、

新たな思い出をつくりながら時間を過ごす方がいいと考えた。ハウイーは 12 月 7 日(2013 年)、ロウレルは 12 月 6 日(2014 年) に亡くなった。

息子のマッシューが額にキスをしてもほとんど反応しないロウレル。ベッドからほとんど出られなくなり、話すときも低い小声しか出せなくなった。

■ ■ 国際性豊かな審査員団

「世界報道写真コンテスト」は、国際審査員団によって入賞作品が選ばれます。十数人から成る審査員団は毎年メンバーを替えて、審査の中立性を保つ努力がなされています。全ての応募作品は匿名で審査され、票を持たない事務局員が審査過程の公平性を監督します。

< 「第59回 世界報道写真コンテスト」国際審査員 >

- 審査委員長 フランシス・コーン(フランス) AFP 通信、フォト・ディレクター
- エリアンナ・アポンテ(コロンビア) フォトグラファー
- トーマス・ボルベア(デンマーク) ポリティカン、写真編集長
- ティム・クレトン(オーストラリア) フォトグラファー
- デビッド・フルスト(アメリカ) ニューヨーク・タイムズ、国際写真編集者
- ミヒャエラ・ヘロルド(オーストリア) シュピーゲル、フォト・ディレクター
- ロザムンド・キッドマン・コック(イギリス) 編集者
- サイモン・ノーフォーク(イギリス) フォトグラファー
- ジョージ・オソディ(ナイジェリア) フォトグラファー
- ファン・ウェン(中国) 新華社通信、ニューメディア開発ディレクター
- パラシャント・パンジール(インド) フォトグラファー
- トーマス・P・ペスチャック(ドイツ/南アフリカ) フォトグラファー
- マルグリット・シュロップ・ルカレツリ(アメリカ) スポーツ・イラストレイテッド・グループ、ディレクター
- シン・チー・イン(シンガポール) フォトグラファー
- ジョージ・シュタインメッツ(アメリカ) フォトグラファー
- アナスタシア・テイラー＝リンド(イギリス/スウェーデン) アーティスト・ジャーナリスト
- ナルダ・ヴァン・ヴェール(オランダ) UNIT C.M.A、ラーフェンスタインギャラリー創設者
- ティム・ド・ワエル(ベルギー) フォトグラファー
- ヴォーン・ウォレス(アメリカ) アルジャジーラ・アメリカ写真副編集長
- 書記 デイビッド・グリフィン(アメリカ) DGriffin スタジオオーナー
- 書記 サイモン・ンジャミ(カメルーン) 学芸員・講師・美術評論家
- 書記 マリア・マン(アメリカ) EPA 通信、国際関係ディレクター

■ ■ 開催概要

展覧会名 世界報道写真展 2016

会期 2016年9月3日(土)～10月23日(日)

休館日 毎週月曜日

(9月19日開館、翌20日休館。10月10日開館、翌11日休館)

会場 東京都写真美術館 地下1階展示室

TEL: 03-3280-0099

〒153-0062

東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

<http://www.topmuseum.jp/>

開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで、但し9月9日・10日は21:00)

※入館は閉館の30分前まで

観覧料(税込)

	当日	前売り/団体20人以上
一般	800円	640円
学生	600円	480円
中学・高校生	400円	320円
65歳以上	400円	320円

※小学生以下無料

※チケットは東京都写真美術館およびセブン-イレブン(店内マルチコピー機「セブンチケット」ボタン)でお買い求めいただけます。前売券はセブン-イレブンで7月22日から9月2日まで販売します。

一般お問い合わせ 03-3280-0099

展覧会ホームページ <http://www.asahi.com/event/wpph/>

■ ■ 巡回先を含めた開催概要

主催 世界報道写真財団 / 朝日新聞社 / 阪神電気鉄道(大阪) /

立命館大学国際平和ミュージアム(京都、滋賀、大分) /

立命館アジア太平洋大学(大分)

共催 東京都写真美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)(東京) /

イオンモール株式会社(埼玉越谷、福岡直方)

後援 オランダ王国大使館 / 公益社団法人日本写真協会 / 公益社団法人日本写真家協会 /

全日本写真連盟

協賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

巡回先	京都	2016年6月3日(金)～6月25日(土)	立命館大学 国際平和ミュージアム
	滋賀	2016年6月27日(月)～7月8日(金)	立命館大学 びわこ・くさつキャンパス
	大分	2016年7月11日(月)～7月24日(日)	立命館アジア太平洋大学
	福岡	2016年7月27日(水)～8月7日(日)	イオンモール直方
	大阪	2016年8月9日(火)～8月18日(木)	ハービス HALL
	埼玉	2016年10月25日(火)～11月6日(日)	イオンレイクタウン kaze